

## 7.2.0 運営指導委員会記録

担当：西村 介

### 第1回運営指導委員会

日時 令和4年9月30日(金)

場所 神戸市立六甲アイランド高等学校 大会議室

出席者

兵庫県立大学	鈴木 武	大阪教育大学	仲矢 史雄
神戸市青少年科学館	和田 智明	シスメックス株式会社	吉田 智一
国立研究開発法人科学技術振興機構	三ツ井 良文	神戸市教育委員会	河野 彰信
神戸市教育委員会	村上 昌也	神戸市教育委員会	鴛海 伸一
校長	谷口 元庸	教頭	塚本 光矢
教頭	西本 祥子	教員	福田 直起
教員	岩本 哲人	教員	高橋 健太
教員	西村 介	教員	釜谷 尚史
教員	根間 侑也	教員	梅村 佳史

令和4年度 SSH の取組についての報告

○各授業についての報告(一部抜粋)

- ・特別探究②…「発表機会の増加」に重点を置いたところ、プレゼンテーション力は向上できたが、研究内容の充実が課題となった。2つのバランスをどのようにとっていくかが課題。
- ・SSH 神戸学…授業や探究活動の中で外部との繋がりが増えてきている。しかし、生徒の探究活動が本来の目的の「社会での役立て方」に結びついていない部分があることが課題。

○SSH の事業報告(今年度からの新たな取組について)

- ・特別講義…今年度から校内だけでなく、校外(神戸市内の小、中、高)への案内を実施。
- ・教員研修…探究活動等の指導力向上を目指し、部署の教員が年3回、本校教員に向け研修を実施。
- ・卒業生アンケート…卒業して1, 3, 5, 10年目の生徒を対象に進路等についての追跡調査を行う。

○運営指導委員の方からの意見や助言

- ・過去に海外の大学と交流した際、英語力について指摘されたことがある。国内の英語の強い学校やSSHの力を求めているところと協力して、3校対1校などで国際共同研究に取り組んではどうか。
- ・外部との協力が増えてきたように感じる。繋がりを維持しつつ、今後も協力先を増やすといい。
- ・今後、理系対象の奨学金などのシステムが増えていく。SSHで培った力を活用して応募するといい。
- ・カリキュラムは数年間継続することが大前提。教員の入れ替わりに対応するためにも、毎年準備したもの、ケースバイケースの取組など、詳細に記録を残していった方がいい。
- ・現在、渡航費用が2倍程度になっているため、海外研修で現地に行くのはやめた方がいい。逆に来てもらう方が、費用対効果が高い。英語の教科書で理系のALTに授業をしてもらい、海外の生徒と一緒にそれを受ける。これにより、英語で授業を受ける形を明確にイメージできる。他校でもこのような取組は行っていない。実施すれば広報することもできる。